書式第１２号（法第２８条関係）

事　業　報　告　用

令和７年度　　事　業　報　告　書

特定非営利活動法人　日本せきずい基金

１　事業の成果

■１．[redacted]の逝去と新体制への移行

[redacted]が、令和７年（2025年）12月27日、80歳にてご逝去されました。[redacted]は29歳のときラグビーの試合中に頸髄を損傷して以来、電動車椅子で地域生活を継続しながら、[redacted]として活動を牽引してきました。脊髄損傷者の生活向上と再生医療の推進に多大な貢献を果たした功績が認められ、令和８年２月には旭日小綬章の授章が閣議決定されています。[redacted]が就任しました。「大濱眞さん　お別れ会」は令和８年４月28日（火）に、全国脊髄損傷者連合会との合同で、東京・霞が関の灘尾ホールにて執り行われました。

■２．シンポジウム「Walk Again 2025」の開催

令和７年11月８日（土）、東京・日本橋ライフサイエンスハブ（コレド室町３・８階）にて「Walk Again 2025　実現に向けて加速する再生医療」を開催し、180名もの参加者が会場を埋め尽くしました。今年は車椅子使用者の参加が例年以上に多く、iPS 細胞臨床研究の結果公表が当事者の関心を大きく高めていることを示す場となりました。

主な講演内容

・[redacted]：再生医療と遺伝子治療をめぐる国際状況および日本の立ち位置について。2025年９月時点で日本では条件付き承認を含む22製品が承認されており、iPS細胞による臨床試験の件数がES細胞を上回ったと報告された。

・[redacted]：亜急性期脊髄損傷へのiPS細胞由来神経前駆細胞移植臨床研究の成果を詳説。４症例中２症例でAISがA→C以上へ改善し、安全性（腫瘍化なし）を確認。数年以内の慢性期治験開始を宣言した。

・[redacted]：iPS細胞由来心筋細胞シートを用いた重症心不全治療の治験結果（８例全例で安全性確認）を報告し、製品化の厚生労働省への承認申請中であることを紹介。

・[redacted]：手指運動制御における脊髄神経回路の役割と筋シナジーに関する基礎研究を紹介。脊髄刺激による筋シナジーの再建可能性に言及。

・[redacted]：ニューロモデュレーション技術（BMI・HAL®・手指ロボット等）を組み合わせた運動麻痺治療の現状と、再生医療との高いシナジー効果を解説。

■３．再生医療・最新研究の動向

iPS細胞臨床研究の完了と治験準備

慶應義塾大学病院が2020年12月から進めていた「亜急性期脊髄損傷に対するiPS細胞由来神経前駆細胞を用いた再生医療」の臨床研究（４症例）は、2024年11月に全症例の経過観察を完了。今年３月の日本再生医療学会で成果が公表されました。ISNCSCI total motor scoreは中央値13点改善し、４例中２例がAIS A→C以上へと改善。重篤な有害事象は１件もなく、一定の安全性と有効性の可能性が示され

ました。亜急性期の治験は株式会社ケイファーマで実用化準備が進み、慢性期不全損傷を対象とした医師主導治験は2027年開始が予定されています。

ステミラック注®の普及

第60回日本脊髄障害医学会（2025年11月、東京）の報告によると、条件・期限付き承認を受けているステミラック注®（骨髄間葉系幹細胞）の実施施設は全国10か所以上に拡大し、2025年8月末時点で累計登録症例は約300例を超えました。神経障害性疼痛への効果も報告されており、さらなる研究が期待されています。

新たな注目研究

村山医療センター整形外科では脊髄損傷後の難治性疼痛に対する脊髄刺激療法（SCS）を導入し、保険適用のもとで約20例に実施、約8割で疼痛が半減する成果を得ています。また、Nature Medicineに掲載された視床下部脳深部刺激（LH-DBS）の研究では、不全脊髄損傷患者において歩行速度・安定性の即時改善とリハビリとの相乗効果が確認され、新たな治療アプローチとして注目されています。

■4．自由診療への警鐘と情報発信

2025年8月、自由診療の再生医療（自己脂肪由来幹細胞の点滴投与）を受けた患者が死亡する事案が発生し、厚生労働省が提供停止の緊急命令を発出しました。当基金は、「厚生労働省に届け出済」と謳う医療機関であっても、それは書類の「届け出」にすぎず、国が許可・承認した医療行為ではないことを改めて強調。当基金でこれまでに自由診療の第2・3種再生医療で脊髄損傷が改善したという確認事例は1件もないことを明記し、患者が高額治療の被害を受けないよう注意喚起を行いました。日本脊髄障害医学会および日本再生医療学会からも同趣旨の声明が発出されています。

■5．研修・普及活動

2025年11月30日、沖縄県宜野湾市にて「第2回 せき損セミナー in Okinawa」を開催。[redacted]が登壇し、医師・医療従事者・当事者・家族が一堂に会して講演とパネルディスカッションを行いました。再生医療を見据えた体づくりや、脊髄損傷後の生活の質の向上に向けた実践的な内容が好評を博しました。また今年も年4回の会報発行を通じて、最新の再生医療情報や当事者の声を全国の会員に届けています。

2　事業の実施に関する事項

（1）特定非営利活動に係る事業　　（事業費の総費用【12,449】千円）

定款に記載された事業名	事業内容	日時	場所	従事者人数	受益対象者範囲	受益対象者人数	事業費（千円）
第5条　1．せきずい損傷に関する教育、啓発のための募金活動、講演会、イベントなどの各種事業	「日本せきずい基金ニュース」刊行：11,000部×4回	通年	事務所	役員5名	脊髄損傷者、家族、医療・福祉従事者等	11,000人	2,157
	脊髄再生シンポジウム Walk Again 2025	11月8日	日本橋ライフサイエンスハブ	役員8名 講師4名 ボランティア22名		2,000人	1,746
	募金活動事業	通年	事務所	役員6名		13,000人	435
第5条　2．せきずい損傷者のためのピアカウンセラー（コンサルタント）の育成・派遣のための各種事業	相談事業：電話・メールによる相談対応	通年	事務所	役員3名	脊髄損傷者、家族、医療・福祉従事者等	100人	781

第5条　3. せきずい損傷に関する医学分野の情報収集、講演会、調査、研究のための各種事業	脊髄損傷者の生活実態調査	一昨年10月～継続中	事務所	役員3名 研究協力者16名	脊髄損傷者、家族、医療・福祉従事者等	13,000人	1,200
	脊髄損傷勉強会	7月5日	村山医療センター	役員3名 講師5名		150人	163
		9月26日	福岡脊損シンポジウム	役員3名 講師7名		80人	1,320
		11月30日	沖縄せき損セミナー	役員3名 講師5名		100名	3,876
	日本リハビリテーション医学会	6月11～12日	京都	役員2名		13,000名	169
	日本脊髄障害医学会	11月7～9日	東京	役員1名		13,000名	86
	日本再生医療学会	3月18～19日	神戸	役員4名		13,000名	516

（2）その他の事業

なし

書式第１３号（法第２８条関係）

令和７年度　活動計算書

特定非営利活動法人日本せきずい基金

（単位：円）

科目	金額	小計・合計
【A】 経常収益		
1 受取会費		0
2 受取寄附金		6,191,795
受取寄附金	6,191,795	
3 受取助成金等		8,000,000
受取助成金	8,000,000	
4 事業収益		0
5 その他の収益		56,867
受取利息	56,867	
経常収益計		14,248,662
【B】 経常費用		
1 事業費		
（1）人件費		0
（2）その他経費		12,449,366
募金活動事業費	138,112	
脊髄再生促進事業費	771,469	
脊損支援事業費（WalkAgain）	1,745,529	
脊損支援事業費（せき損研修会）	5,655,951	
脊損支援事業費（実態調査）	1,200,660	
広報活動事業費（会報）	2,156,537	
広報活動事業費（ＨＰ）	781,108	
事業費計		12,449,366
2 管理費		
（1）人件費		0
（2）その他経費		2,517,588
通信費	253,235	
荷造運賃	11,880	
水道光熱費	32,519	
旅費交通費	40,329	
交流費	77,000	
会議費	2,705	
事務用消耗品費	72,764	
地代家賃	1,056,000	
保険料	11,500	
租税公課	1,900	
諸会費	121,375	
支払手数料	49,547	
業務委託料	786,834	
管理費計		2,517,588
経常費用計		14,966,954
当期経常増減額 【A】－【B】 ・・・①		-718,292
【C】 経常外収益		
経常外収益計		0
【D】 経常外費用		
経常外費用計		0
当期経常外増減額 【C】－【D】 ・・・②		0
税引前当期正味財産増減額 ①+② ・・・③		-718,292
法人税、住民税及び事業税 ・・・④		0
前期繰越正味財産額 ・・・⑤		40,172,471
次期繰越正味財産額 ③－④+⑤		39,454,179

書式第１５号（法第２８条関係）

令和７年度　貸借対照表

特定非営利活動法人日本せきずい基金

科目	金額	小計・合計
【A】 資産の部		
1 流動資産		
		40,218,084
現金預金（一般会計）		
現金	88,341	
普通預金	16,490,869	
現金預金（特別会計）		
普通預金	5,750,266	
定期預金	17,016,275	
立替金	598,258	
前払費用	274,072	
流動資産合計 ・・・①		40,218,084
2 固定資産		
（1）有形固定資産		0
（2）無形固定資産		0
（3）投資その他の資産		150,000
敷金	150,000	
固定資産合計 ・・・②		150,000
【A】資産合計 ①+②		40,368,084
【B－1】 負債の部		
1 流動負債		
		913,905
未払費用	870,767	
預り金	43,138	
流動負債合計 ・・・③		913,905
2 固定負債		
		0
固定負債合計 ・・・④		0
負債合計 ③+④		913,905
【B－2】 正味財産の部		
前期繰越正味財産額	40,172,471	
当期正味財産増減額	718,292	
正味財産合計		39,454,179
【B】 負債及び正味財産合計 【B－1】＋【B－2】		40,368,084

書式第１６号（法第２８条関係）

令和７年度　　計算書類の注記

特定非営利活動法人日本せきずい基金

１．　重要な会計方針

計算書類の作成は、NPO法人会計基準（2010年7月20日　2017年12月12日最終改正　NPO法人会計基準協議会）によっています。

（1）消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税込方式によっています。

２．　事業別損益の状況

（単位：円）

科目	事業	事業	事業	事業	事業部門計	管理部門	合計
Ⅰ　経常収益							
１．受取会費							0
２．受取寄附金							6,191,795
３．受取助成金等							8,000,000
４．事業収益							0
５．その他収益							56,867
経常収益計							14,248,662
Ⅱ　経常費用							
（1）人件費							
給料手当							0
人件費計							0
（2）その他経費							
募金活動事業費							138,112
脊髄再生促進事業費							771,469
脊損支援事業費（WA）							1,745,529
脊損支援事業費（研修会）							5,655,951
脊損支援事業費（実態調査）							1,200,660
広報活動事業費（会報）							2,156,537
広報活動事業費（ＨＰ）							781,108
管理費その他の経費							2,517,588
その他経費計							14,966,954
経常費用計							14,966,954
当期経常増減額							−718,292

３．　使途等が制約された寄附金等の内訳

使途等が制約された寄附金等の内訳（正味財産の増減及び残高の状況）は以下の通りです。

当法人の正味財産は39,454,179円ですが、そのうち使途が特定されているものは該当ありません。

したがって使途が制約されていない正味財産は39,454,179円です。

（単位：円）

内容	期首残高	当期増加額	当期減少額	期末残高	備考
脊髄損傷の再生医療に関する勉強会開催費用補助	0	8,000,000	8,000,000	0	
合計	0	8,000,000	8,000,000	0	

４．　固定資産の増減内訳

（単位：円）

科目	期首取得価額	取得	減少	期末取得価額	減価償却累計額	期末帳簿価額
有形固定資産						
無形固定資産						
投資その他の資産						
敷金	150,000			150,000		150,000
合計	150,000	0	0	150,000	0	150,000

５．　借入金の増減内訳

該当事項はありません。

６．　役員及びその近親者との取引の内容

該当事項はありません。

7．　その他特定非営利活動法人の資産、負債及び正味財産の状態並びに正味財産の増減の状況を明らかにするために必要な事項

該当事項はありません。

書式第１７号（法第２８条関係）

令和７年度　財産目録

特定非営利活動法人日本せきずい基金

科目	金額	小計	合計
【A】 資産の部			
1 流動資産			
			40,218,084
現金預金		39,345,754	
一般会計			
手元現金	88,344		
郵便局　府中・分梅	7,234,267		
普通預金　みずほ銀行・多摩支店	6,023,923		
普通預金　三菱UFJ銀行・都立大学駅前	37,351		
普通預金　三井住友銀行・都立大学駅前	114,484		
普通預金　楽天銀行	2,858,404		
普通預金　住信ＳＢＩネット銀行	222,440		
特別会計（財団法人設立準備金）			
郵便局　目黒	5,750,266		
定期預金　三菱ＵＦＪ銀行	10,144,431		
定期預金　みずほ銀行・都立大学駅前	1,871,834		
定期預金　三井住友銀行・都立大学駅前	5,000,010		
立替金		598,258	
諸経費立替金	598,258		
前払費用		274,072	
翌期出張の航空券代	149,280		
年会費（2026.04～）	120,000		
テナント保険料（2025.04～2026.09）	4,792		
流動資産合計　・・・①			40,218,084
2 固定資産			
（1）有形固定資産			0
（2）無形固定資産			0
（3）投資その他の資産			150,000
敷金		150,000	
用賀事務所	150,000		
固定資産合計　・・・②			150,000
【A】資産合計　①+②			40,368,084
【B－1】 負債の部			
1 流動負債			
			913,905
未払費用		870,767	
３月分会報印刷・発送費	543,508		
ＨＰ管理費	99,000		
立替経費等	93,538		
３月分業務委託料、交通費	89,179		
電話代等	45,242		
預り金		43,138	
源泉徴収税	43,138		
流動負債合計　・・・③			913,905
2 固定負債			
			0
固定負債合計　・・・④			0
【B－1】負債合計　③+④			913,905
【B－2】正味財産合計　【A】－【B－1】			39,454,179

書式第１８号（法第２８条関係）

2025＜令和7＞年度年間役員名簿

（前事業年度において役員であったことがある全員の氏名及び住所又は居所並びにこれらの者についての前事業年度における報酬の有無を記載した名簿）

特定非営利活動法人　日本せきずい基金

１　確認事項（法第２０条及び第２１条を確認の上、チェックを入れてください。）

☑以下の役員には、欠格事由者が含まれません。（法第２０条関係）
☑各役員について、親族の規定に違反していません。（法第２１条関係）

２　役員一覧

	役　名 どちらかに○	（フリガナ） 氏　　名	[redacted]	前事業年度内の就任期間	報酬を受けた期間 （該当者のみに記入）
1	(理事)・監事	（オオハマ マコト） 大濱 眞		令和6年 4月 1日 ～ 令和6年 12月 27日	年 月 日 ～ 年 月 日
2	(理事)・監事	（スガワラ タカシ） 菅原 崇		令和6年 12月 28日 ～ 令和7年 3月 31日	年 月 日 ～ 年 月 日
3	(理事)・監事	（オオクボ ツグオ） 大久保 次雄		令和6年 4月 1日 ～ 令和7年 3月 31日	年 月 日 ～ 年 月 日
4	(理事)・監事	（アンドウ アケミ） 安藤 朱美		令和6年 4月 1日 ～ 令和7年 3月 31日	年 月 日 ～ 年 月 日
5	(理事)・監事	（シライ ナガオキ） 白井 長興		令和6年 4月 1日 ～ 令和7年 3月 31日	年 月 日 ～ 年 月 日
6	(理事)・監事	（フシミ リョウジ） 伏見 良治		令和6年 4月 1日 ～ 令和7年 3月 31日	年 月 日 ～ 年 月 日
7	(理事)・監事	（ツチヤ タケシ） 土屋 健		令和6年 4月 1日 ～ 令和7年 3月 31日	年 月 日 ～ 年 月 日
8	理事・(監事)	（カワナベナオノリ） 川鍋 直則		令和6年 4月 1日 ～ 令和7年 3月 31日	年 月 日 ～ 年 月 日
9	理事・(監事)	（スガワラ タカシ） 菅原 崇		令和6年 4月 1日 ～ 令和6年 12月 27日	年 月 日 ～ 年 月 日
10	(理事)・監事	（クロダ ケンタ） 黒田 健太		令和6年 4月 1日 ～ 令和7年 3月 31日	年 月 日 ～ 年 月 日

書式第１８号（法第２８条関係）

11	理事・監事	（カワカミ　タカアキ） 河上　崇陽	[redacted]	令和6年　4月　1日 ～ 令和7年　3月　31日	年　月　日 ～ 年　月　日

書式第４号（法第１０条・第２８条関係）

社員名簿（社員のうち１０人以上の者の名簿）

特定非営利活動法人　日本せきずい基金

	氏　　名	[redacted]
1	菅原　崇	
2	大久保　次雄	
3	安藤　朱美	
4	白井　長興	
5	伏見　良治	
6	土屋　健	
7	河上　崇陽	
8	川鍋　直則	
9	黒田　健太	
10	千葉　裕子	
11	廣瀬　結花	
12	正田　美穂子	
13	白根　由美	

監事監査報告書

私は、特定非営利活動法人日本せきずい基金の令和　7年 4月1日より令和　8年　3月31日までの活動計算書、貸借対照表及び財産目録について会計監査を実施した。
監査の結果、いずれも適法かつ妥当であることを認めた。

監事　　川鍋 [redacted]